

3号機審査申請「了承」

中国電力は5月22日、島根原発3号機の稼働の前提となる新規規制基準の適合性審査申請を旨指し、立地自治体の島根県と松江市に事前了解を求めた。松江市の松浦正敬市長は7月3日に申請了承を市議会で表明し、5日に中電の清水希茂社長に了承を伝えた。ただ、「了承」の経緯には釈然としない部分も残る。

松浦市長は申請容認が大勢を占めた市議などの意見を踏まえたとして、市の安全対策協議会（安対協）では申請反対の発言だけが続いた。この点について松浦市長は「発言しなかつ

民意の反映 どのように

た委員は審査に異論なしと受け止めた」。また、中電主催の住民説明会でも反対意見が続出したが、それらの意見がどう「踏まえられた」のかは具体的な説明はなく不透明なままだ。

今後、島根県の溝口善兵衛知事が申請に了承すれば、国の原子力規制委員会による3号機の審査が始まる。

稼働に際しては、もう一度、松江市や県がその是非を判断する機会がある。松浦市長は「国の審査結果などを踏まえ、改めて最終判断する」としているが、市主催の住民説明会を開いたり、独自に世論調査をしたりして、判断のプロセスと根拠に市民の意見をより反映させる努力も求められそう